

## 第4学年 社会科学習指導案

場所 4年1組教室  
授業者 小林 奈央実

### 1 単元名 「きょう土を開く」

### 2 単元について

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

本単元で扱う粕川は、児童にとっても、地域の人々にとっても、馴染みの深い河川である。本校では、5年生の総合的な学習の時間において森林や米作りを学び、6年生では粕川でのカワゲラウォッチングを行うなど、環境問題についての学習を進める。また、夏になれば、家族で出かけて遊ぶ場所でもある。特に、校区にある粕川の「霞堤（かすみてい）」は、異年齢集団（やぎっ子班）で行うなかよし遠足のチェックポイントとしても親しまれ、PTAの広報誌の題名にもなっている。

しかし、児童にとって粕川は身近な水遊びのできる楽しい場所という意識でしかない。

この単元では、粕川で過去に起こった洪水や水害を知ることを通して、地域の人々の苦労や思いを考えさせるとともに、治水事業を行った先人である岡田将監善同、善政父子の働きに関心をもたせていく。そして、地域の人々の願いや努力、先人の働きや苦心によって地域の生活が向上してきたことを考えさせていく。そして、自分の暮らす地域に誇りをもち、地域社会のよりよい発展を考えようとする児童を育てていきたい。

本時では、霞堤の仕組みを押さえ、ところどころ切れていることによって大雨が降った時に、水の勢いや量を調節して洪水から暮らしを守っていたことを理解させたい。

### 3 研究にかかわる本時の意図

#### 研究内容1 教材化の在り方と単元構成の工夫

##### ① 社会認識を深める教材化の在り方

子どもたちは、霞堤を実際に見たことはあるが一般的な堤防との違いや仕組みを詳しく理解しているわけではない。見学に行き分かったことや、洪水が起きていたときの一般的な堤防（途中で切れていないまっすぐな堤防）と、霞堤（ところどころハの字に切れ、その部分は二重になって

いる）を比べて、霞堤の工夫に気付けるようにし、さらに模型での実験で確かめられるようにする。

#### 研究内容2 学習活動の工夫

##### ① 強い課題意識をもたせるための資料提示の工夫

岡田将監によって作られた霞堤は、ところどころ切れ目のある堤防であることを確認し、「ところどころ切れているのに洪水を防げるのか。」と問うことで課題意識をもたせる。

##### ② 社会認識を深めるための交流の工夫



資料1「霞堤の絵図」から、霞堤は洪水になったときに一時的に本流から水を逃がして溜めることで、溢れないようにしていることや、溜めた水は洪水後に本流に自然に戻るようになっていくことを確認する。

##### かすみ堤の生み出し

池田山と小島山の間から流れる粕川は、高い所から低い所へ向かって流れます。そのため、水にいきおいがあり流れも速く、堤防に強くぶつかりました。この流れが速い粕川の洪水を防ぐために、岡田よしあつは何日も何日も考えました。こうしてかすみ堤は考え出されたのです。

出典「郷土史学研究会刊『粕川の人』」

資料2「岡田将監：霞堤の生み出し」から、粕川のあたる揖斐地区は傾斜がきつく流れが速いため、一般的な堤防では水によって削られてしまうことを知り、粕川には霞堤のつくりが合っていることに気付けるようにする。

2つの資料から堤防が切れていることが、本流の水の量を減らし、防ぐことにつながっていることに気付けるようにする。

##### ③ 単位時間の終末の工夫

模型実験を行い、実際に水を流し、霞堤のある場合とない場合の被害の違いを検証する。霞堤のある方が洪水の被害が小さいことを実際に見ることで、岡田将監がつくった霞堤の素晴らしさに気付けるようにする。

#### 研究内容3 評価と指導・援助

##### ① 一人一人の学習状況に応じた指導・援助の明確化

前時までには学習した粕川の地図や粕川の水害がもたらした被害を表す資料については、いつでも活用できるように掲示しておく。

個に応じた指導・援助として、事実がなかなか読み取れない子には、「切れているところから水が流れるとどんないいことがあるのか。」と声かけをし、事実を読み取れるようにしていく。

##### ③ 身に付けさせたい力の定着を図る見届けの工夫

課題の言葉につなげ、キーワード「水の量」「流れの速さを変える」「洪水から暮らしを守る」を用いてまとめられるようにする。

4 本時のねらい

岡田将監のつくった霞堤は、切れているところから水の勢いや量を調整することによって、人々の暮らしを守っていたことを理解することができる。

5 本時の展開 (8時/全10時間)

	学 習 活 動	指導・援助 (*資料)
課題をつかむ	<p>1 霞堤について、これまでの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まっすぐではなくて、ところどころ切れている。</li> <li>・短い堤防が、ハの字につくられている。</li> <li>・岡田将監がつくった。</li> </ul> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>岡田将監のつくった霞堤は、どのような仕組みなのだろう。</p> </div>	<p>&lt;本時までの児童の意識&gt; 昔は洪水になると堤防が決壊して大変だったんだなあ。霞堤は今までの堤防とどう違うんだろう。</p> <p>* 岡田将監の肖像画 * 粕川の写真 * 年表</p>
調べる	<p>3 資料をもとに調べ、考える。</p> <p>4 課題について、考えたことを仲間と交流する。</p> <p><b>資料①霞堤の絵図</b>                      <b>資料②岡田将監：霞堤の生み出し</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・洪水時、切れているところから水が外に溢れる。</p> <p>・洪水時、溢れた水を一時的に溜めている。</p> <p>・洪水後、溢れ出た水が自然に川にもどる。</p> <p>→自然に水がもどるなんてよく考えてある。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; margin: 10px auto; text-align: center;"> <p><b>水の量</b></p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・高い所から流れてくるから、下流よりも水の勢いがある。</p> <p>・流れが速いため堤防に強く当たる。</p> <p>→普通の堤ぼうでは壊れてしまうかもしれない。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; margin: 10px auto; text-align: center;"> <p><b>流れの速さを変える</b></p> </div> </div> </div>	<p>・側面の年表から昔は洪水のたびに決壊して困っていたことを確認する。</p> <p>・読み取れない子には「切れているところから水が流れるとどんないいことがあるのか。」と、霞堤ならではの仕組みがあることに気付けるように声をかける。</p> <p>・自分が資料から見つけたことを確かめながら実験を見るように声をかける。</p> <p>・霞堤の特徴である「切れ目がある」「わざと溢れさせ一時的に溜める」「川の水量が減ると元に戻る」を模型を見ながら確かめる。</p>
深める	<p>5 霞堤の模型を使って水の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・霞堤がないと大雨で水が増えたときいرونなどところから水が溢れる。</p> <p>・霞堤がないと家まで水が溢れる。</p> <p>・霞堤があると切れているところからしか水が溢れない。</p> <p>・霞堤があると家まで水が溢れない。</p> <p>→霞堤のおかげで家が水につからない。家が守られている。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; margin: 10px auto; text-align: center;"> <p><b>洪水から暮らしを守る</b></p> </div>	<p>◆<b>評価規準</b> <b>霞堤は、水の勢いや量を調整することによって、洪水から人々の暮らしを守っていたことを理解している。(知識・理解)</b> <b>&lt;ノート・発言&gt;</b></p> <p>・キーワードを入れてまとめられるように指導する。</p>
まとめる	<p>6 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>霞堤は、水の量や流れの速さを変える仕組みになっている。それによって洪水から村の人の暮らしは守られた。</p> </div>	<p>&lt;出口の児童の意識&gt; 霞堤は水を溜められるから洪水になっても村の暮らしを守れたんだな。すごい仕組みだな。</p>

## 6 単元構成表「きょう土をひらく」

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
単元の目標	霞堤をつくった先人の働きに関心をもち、意欲的に調べるとともに、先人の努力によって発展してきた地域に愛着をもって、地域社会のよりよい発展を考えようとする。	霞堤をつくった先人の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、地域の人々の生活の向上には、人々の願いやそれを実現するための努力、岡田将監善同・善政父子をはじめとする先人の働きや苦心があったことを考え、適切に表現することができる。	今も残る霞堤の様子や見学、地域の人への聞き取り、年表その他の資料の活用を通して必要な情報を集め、治水事業に尽くした先人の働きや苦心を読み取ってまとめることができる。	霞堤をつくって地域の発展に尽くした岡田将監善同・善政父子をはじめとする先人の働きを理解するとともに、地域の人々の生活の向上が人々の願いや努力、先人の働きや苦心によるものであることを理解することができる。
評価規準	霞堤には、先人の努力と工夫で発展した足跡が残っていることに関心をもちている。① 地域に残る先人の足跡を探し、関心をもちている。⑩	霞堤をつくることのできた理由を、岡田将監の努力や苦心、村人たちの働きがあったからだと考え、表現している。⑨ 地域に残る先人の働きや苦心について考え、表現している。⑩	霞堤のつくりを目を向けることを通して学習問題を明確にし、見学の計画を立てている。② 粕川と霞堤について、観点をもとに見学し、必要な情報を集めている。③ 粕川と霞堤について、調べたことを絵や写真を使って分かり易くまとめている。④⑤	かつての粕川は、洪水が多く、かなりの被害が出たことについて理解している。⑥⑦ 霞堤は、水の勢いや量を調整することによって、洪水から人々の暮らしを守っていたことを理解している。⑧

### <単元前の児童の意識>

粕川は、穏やかに流れている川である。粕川は遊べる楽しい場所で、「霞堤」というのは、場所を表す言葉である。

考えさせたい内容	調べさせたい事実	押さえてたい用語・語句
昔の粕川は、洪水が多く、かなりの被害が出て村人たちは苦労していた。	粕川が洪水を起こす度に、流れを変え、かなりの被害が出た。①⑥⑦	洪水・水害 堤防・霞堤
岡田将監善同・善政父子は、努力や苦心を重ねて霞堤をつくり、村人たちの願いを実現したいと考えた。	粕川には今でも霞堤が残り、川に沿ってハの字のようにつくられている。②③④⑤ 昔の粕川は水の勢いが強く、堤防に当たることで、何回も洪水が起きた。岡田将監父子は、粕川の特徴を考えて霞堤をつくった。⑧	岡田将監善同・善政 揖斐川用水
地域の発展のために働いた人がいるお陰で今の生活がある。	岡田将監父子の苦勞と努力で霞堤をつくることのできた。霞堤をつくるために村人たちが働いた。⑨ 地域には、岡田将監父子以外にも地域の発展のために働いた人物がいる。⑩	坪井信道 遠藤九一

### <単元後の児童の意識>

今まで何気なく見ていた粕川や霞堤には、自分たちの知らないことが多くあった。自分たちの地域は、昔、洪水が多く起こった地域であり、たくさんの被害があった。村人たちの不安や苦労を救うために岡田将監善同・善政父子が工夫や苦心を重ね、暮らしを守るために霞堤が築かれた。

地域には、地域の発展のために働いた人がたくさんいるので、これからも調べていきたい。